

あげ・こげ・じげじまん

第1回 漆原集落（福長）に伝わるもの・こと



まさに地域の「生き字引」の生田さん

まちのそれぞれの地域に伝わる伝承や史跡などを、地域の皆さんに聞く新コーナー「あげ・こげ・じげじまん」。
第1回目は、生田美枝さん（福長）に、漆原集落のじげじまんを聞いてみました。

生田さんは、94歳の今も漆原の自宅で元気に暮らしておられます。生まれも育ちも漆原という生田さんに、昔のこ

とを話していただきました。
▼漆原には「定墓」というものがあると聞きましたが、集落の下の丘の上にありますよ。このあたりでは「五輪

さん」と呼ばれています。

昔、尼子の落武者らしき人がこの土の中に入り、亡くなるまで念仏を唱えていたといわれています。この定墓には穴が開いていて、そこから念仏の声が聞こえたり、香の煙が出ていたそうですが、やがてそれも途絶えたので亡くなったことが分かったそうです。

す。私が子どものころは、五輪さんにお参りするといぼが治るといわれていて、みんなお参りしていましたね。今でもお盆には周りをきれいに掃除して管理を続けています。



定墓（右）の上の石を取るとこぶし大の穴が（左）

▼「辻堂」で「観音さんごもり」をしているとか

辻堂には観音様が祀つてあります。今でも毎月17日には地域の人がお参りを続けていますよ。特に、7月の17日は「観音さんごもり」といって料理を持ち寄りたりお経を唱

えたりしています。地域の交流にもなっているんじゃないでしょうか。

昔は、正月の4日に一番先にここにお参りすると縁起がいいということで、12時を境に先を競ってお参りをしたものです。また、当時は正月の三日は男性が早起きをして食事を作る風習もありましたね。ただ、実際はたいぎがたり「あれはどこだ」などと言われて、結局女性は寝ていられたかったものです。

▼漆原と諏訪の間にある「大嫁地蔵」について教えてください

あのお地蔵さんは、村で結婚式があるときに、村の若者たちが地蔵を担いで行き、その家の前に置いて祝つたんだそうです。逆に、村の中でよくないことをした人の家の前にも置かれたんだとか。

また、昔は大師講団子という団子を作つて、お参りをす



集落のはずれにある大嫁地蔵

るときに自分が良くなりた部分があれば、お地蔵さんのその部分に団子を塗りつけたりということもしていました。今ではそんな風習も残っていませんが、今でも願いをこめてお地蔵さんに手を合わせると、心が楽になるような気持ちになりますね。

手芸が趣味という生田さん。布のわらじやガマで編んだかごなどを毎日作っているそうです。それが長生きの秘けつかもしれないですね。生田さん、貴重なお話をありがとうございました。



色とりどりのわらじを趣味で

「じげじまん」を聞かせてください... 町教育委員会では、地域に伝わる伝承や風習、史跡、昔話、田植え唄などを話していただける人を募集しています。

詳しくは町文化センター（電話 72 - 1300）までお問合せください

34年間守りつづけた技術と伝統 山陰でただ一人のコア職人

中村庸一さん（三谷）に県林業技術賞優秀賞

優れた木材加工技術を持つ人などを表彰する、県林業技術協会主催の平成18年度県林業技術賞の優秀賞に、コア職人の中村庸一さん（三谷）が選ばれ、6月28日、日野総合事務所による伝達式が、中村さんの自宅で行われました。

コアとは、瓦の下に敷く薄い木の板のこと。家の湿気を吸うことから、「屋根を100年もたせる」と言われています。中村さんは昭和48年から高尾の作業所でコアを作りつづけており、現在、山陰唯一のコア職人です。



二人三脚でコアを作りつづけている妻の皓子さん（左）と

今回の受賞について中村さんは、「長年コアを作りつづけて、このような賞をもらえるとは思っていませんでしたが、受賞は本当にうれしい。自分が研究を重ねてきた技術が評価されたんだと思います」と話しました。また、「材料は地元産のヒノキなどを使い、機械を使って厚さ約2ミリの薄い板に加工します。その微妙な調整は、機械を使う手と足の感覚でわかるようになりました。外材などが増える、コアの注文の数も減っていますが、変わらず注文してくれる人もあります。ぜひコアを使いたいという声は本当にありがたいです」とも。

今後のことについては、「後継者がいないことが一番の問題。口コミでも人気があるそうなので、自分の健康維持のためにもできるだけ注文に応じていきたい」と話します。口ぶりはまさに職人。これからもその心意気で、縁の下ならぬ屋根の下での力持ち、コアを作りつづけてほしいですね。

谷口優佳子さんに表彰状 ～県教育長表彰～

ソフトテニスの全国大会で活躍したとして、日野中学校3年生の谷口



谷本和賀雄校長から表彰状が贈られる

優佳子さんが県教育長表彰を受賞し、7月6日、日野中学校で伝達式が開かれました。

谷口さんは、3月に三重県で開かれた第18回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会に県代表として出場、女子団体戦の部で見事第3位になったことが評価されたものです。谷口さんは、「こんなにすごい賞をもらえるとは思っていませんでした。7月7日・8日に香川県で開かれる尽誠杯では、団体・個人ともに優勝を目指します」と話しました。

白球を追って栄光をつかめ

全日本小学生ソフトテニス選手権大会に出場

8月2日～5日、群馬県前橋市で開かれる「第24回全日本小学生ソフトテニス選手権大会」に、町内の小学生4人が鳥取県代表として出場します。



小谷真由さん（根雨小5年、写真左）
「春の大会では32位。それ以上を目指したい」
西村渚さん（黒坂小5年、写真右）
「お姉ちゃんを目標に最後まで頑張りたい」



坂本茉莉乃さん（黒坂小6年、写真左）
「悪いところを直して、ボレーを多く決めたい」
木村理沙さん（黒坂小6年、写真右）
「全国大会は6回目。去年よりも多く勝ちたい」

